

晴れやかに 能の世界



能舞台で伝統の舞を演じる輛中の生徒たち

沼名前神社

福山市鞆町の沼名前神社（なまぐさま）にある国重要文化財の能舞台で十日、町内の幼稚園児や小、中学生が連吟や仕舞を披露した。「輛の浦名舞台雅の世界」（地元実行委主催）と題した上演会の幕開けの舞台を務めた。
（山本堅太郎）

子ども93人 連吟や仕舞

輛小の六年生四十八人は「輛浦」を元気よく吟じ、輛中の一年生三十二人は仕舞「羽衣」を、和服姿であでやかに舞った。鞆幼稚園の園児十三人も連吟をかわいらしい声で詠った。

子どもたちは今年六月から、喜多流大島家の大島衣恵さんらの指導を受け、練習に励んできた。地域の伝統文化に触れる幼稚園・学校行事の一環。同小の石本智也君（12）は「多くの観客を前に緊張したけど、練習通り大きな声を出すことができた」と満足そうだった。

上演会ではこのほか、喜多流大島家の大島政允